

# 大多喜ガス株式会社 第56期第2四半期決算説明会

千産千消エネルギー



**OTAKI GAS**

平成23年8月18日

# ～説明会内容～

1. 東日本大震災の影響
2. 平成23年度第2四半期決算の概要
3. 電力不足に対するガス業界の取組
4. 平成23年度中期経営計画の修正
5. 利益配分の基本方針



# 1. 東日本大震災の影響

# 東日本大震災の影響

## ①当社グループの被災状況

- ・人的・物的ともに被害はありませんでした。

## ②業績への影響

- ・電力供給不足の影響により発電用途での需要が増加しました。(プラス要因)
- ・オール電化攻勢の一時的な後退現象。(プラス要因)
- ・工業向けの一部のお客さまにおきまして、設備の被災や電力供給不足により、ガス使用量が減少しました。(マイナス要因)
- ・節約・省エネ志向を背景とした消費者マインドの変化があった模様で、家庭向け・商業向けのお客さまのガスの使用量が減少しました。(マイナス要因)

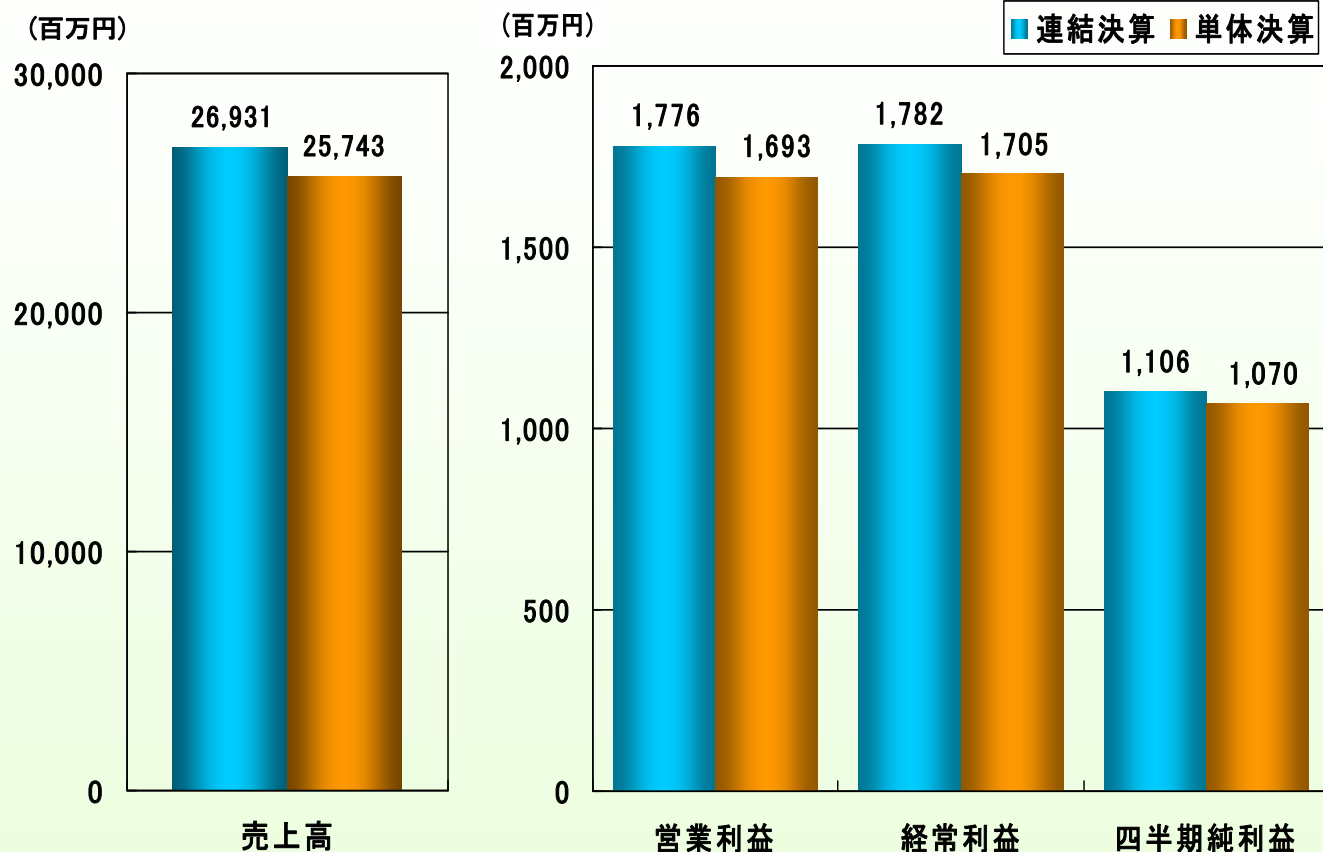
# 東日本大震災の影響

## ③被災地・被災者への支援

- 東北地方の被災ガス事業者（仙台市ガス局）の復旧支援に延べ900人の復旧応援隊を派遣。
- ガス料金の特別措置を適用。
- 日本赤十字社を通じて2千万円の義援金の寄付。
- 役職員有志による義援金を千葉県災害対策本部へ寄付。
- 社宅を避難者の方へ提供。

# 2.平成23年度 第2四半期決算の概要

# 平成23年度第2四半期決算概要 (平成23年1月～6月)



**連結決算**

売上高 26,931百万円  
 営業利益 1,776百万円  
 経常利益 1,782百万円  
 四半期純利益 1,106百万円

**単体決算**

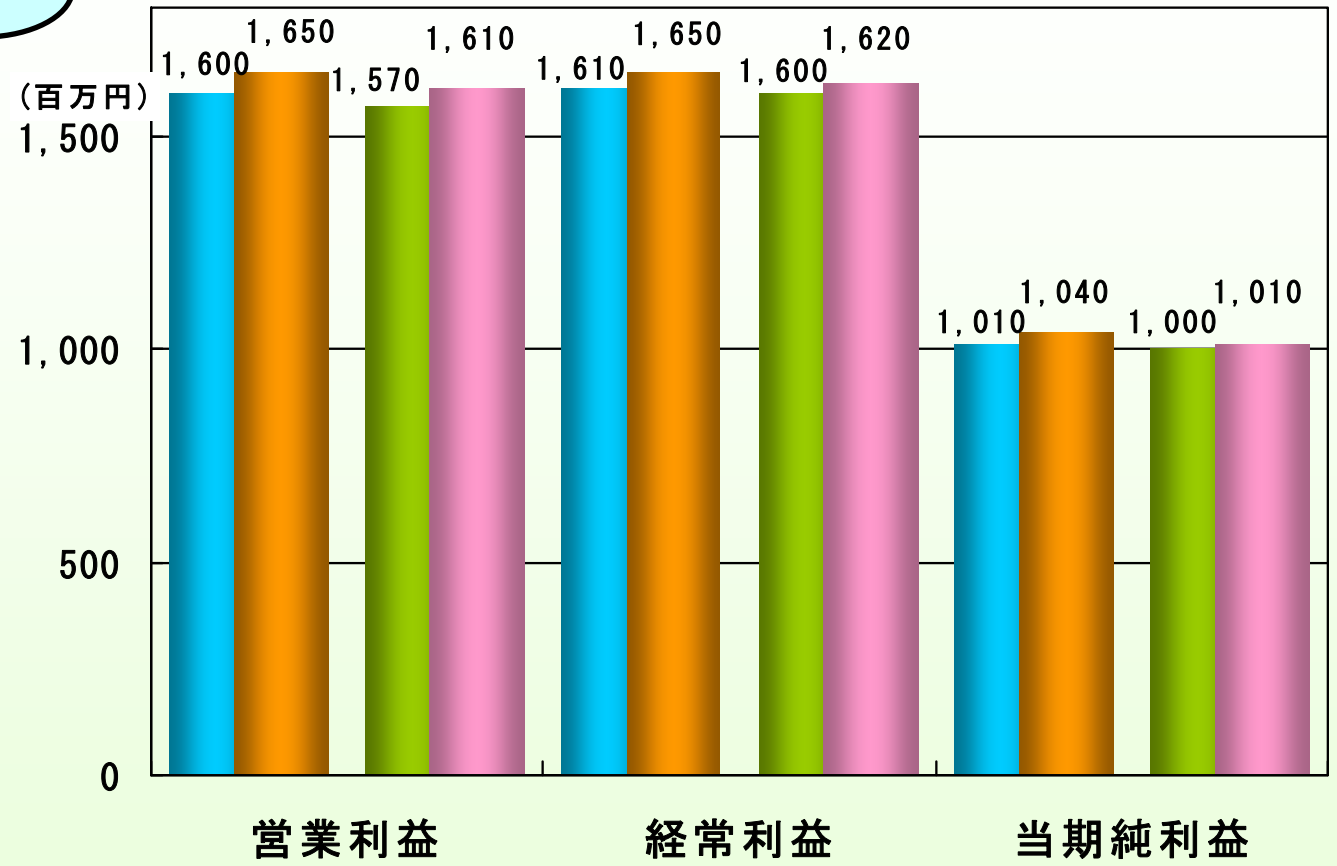
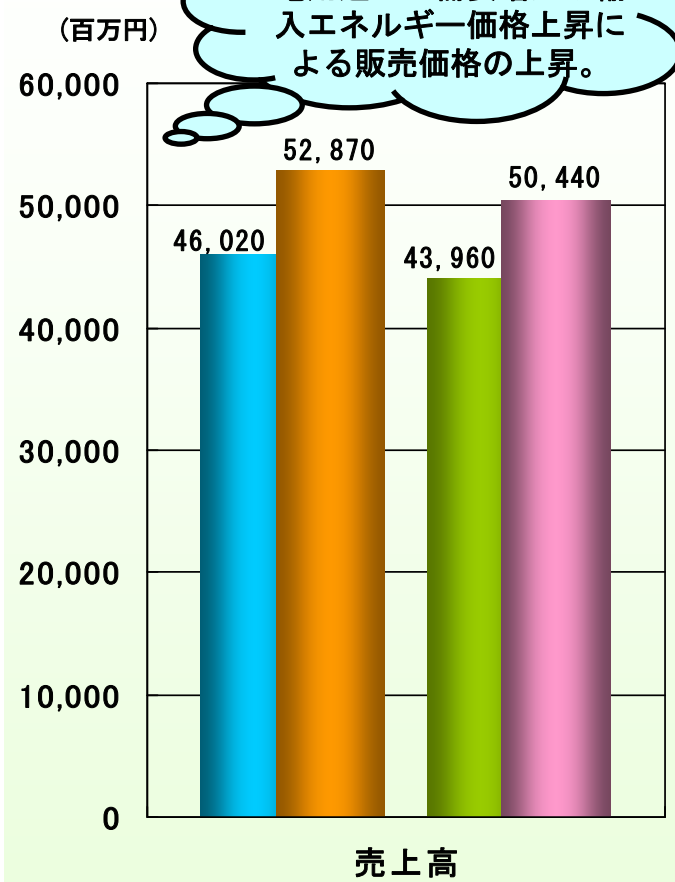
売上高 25,743百万円  
 営業利益 1,693百万円  
 経常利益 1,705百万円  
 四半期純利益 1,070百万円

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
連結決算 (対前年同期増減率: %)	13.1	△1.0	△1.6	△1.8
単体決算 (対前年同期増減率: %)	13.6	△0.4	△1.3	△0.7
連単倍率	1.05	1.05	1.04	1.03

# 平成23年度通期業績予想の修正 (平成23年1月~12月)

電力不足の影響による発電用途での需要増加や輸入エネルギー価格上昇による販売価格の上昇。

■ 連結当初予想数値      ■ 連結修正予想数値  
■ 個別当初予想数値      ■ 個別修正予想数値



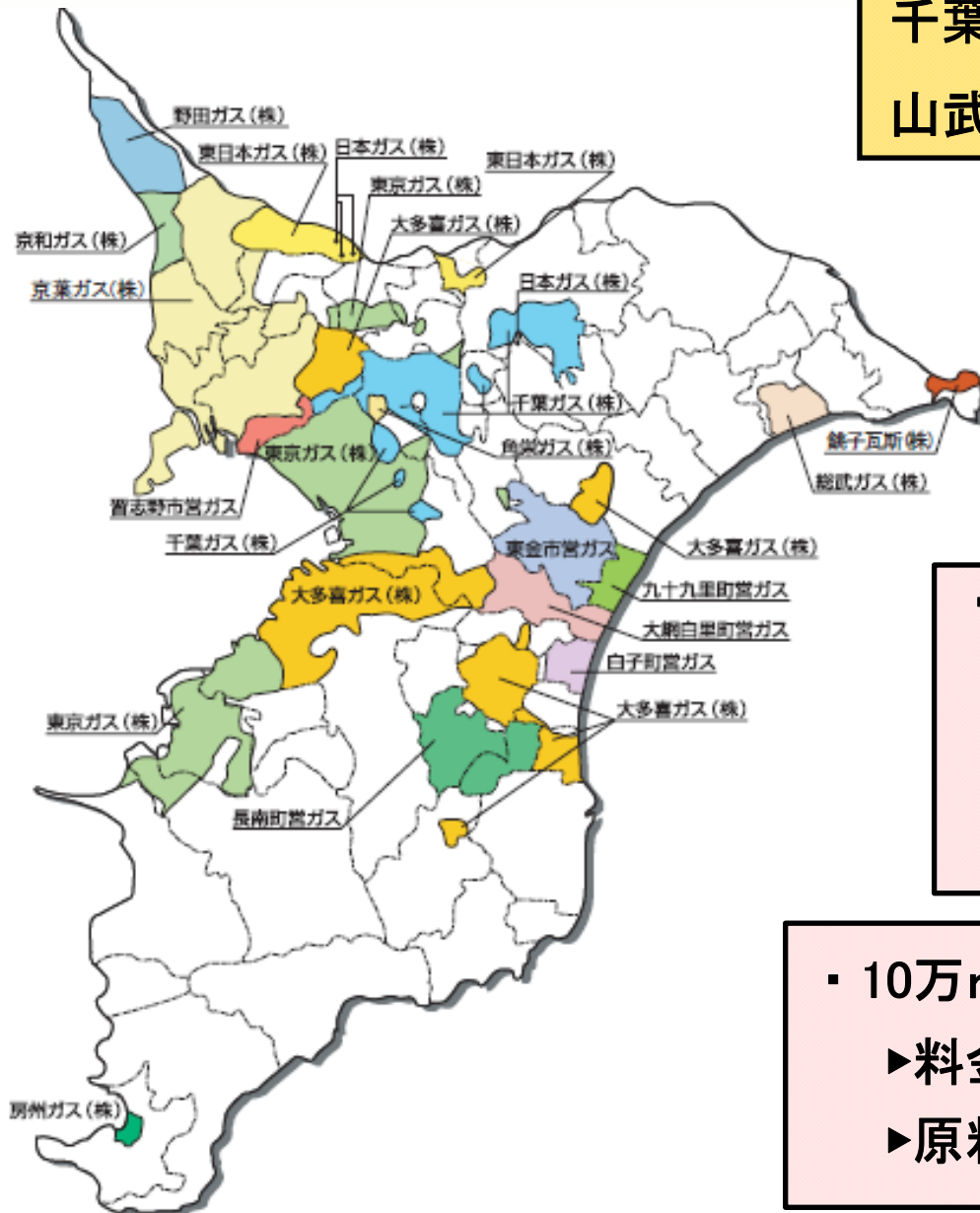
【連結】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当初予想数値 (百万円)	46,020	1,600	1,610	1,010
修正後の予想数値 (百万円)	52,870	1,650	1,650	1,040
増減率 (%)	14.9	3.1	2.5	3.0

【個別】	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当初予想数値 (百万円)	43,960	1,570	1,600	1,000
修正後の予想数値 (百万円)	50,440	1,610	1,620	1,010
増減率 (%)	14.7	2.5	1.3	1.0

# 供給区域の概要

## 大多喜ガスの供給区域

千葉県茂原市 市原市 八千代市 千葉市  
山武市 大多喜町 一宮町 睦沢町 長生村



### 【供給ガス】

12A 千葉県産天然ガス・オフガス・  
BOG  
13A LNG

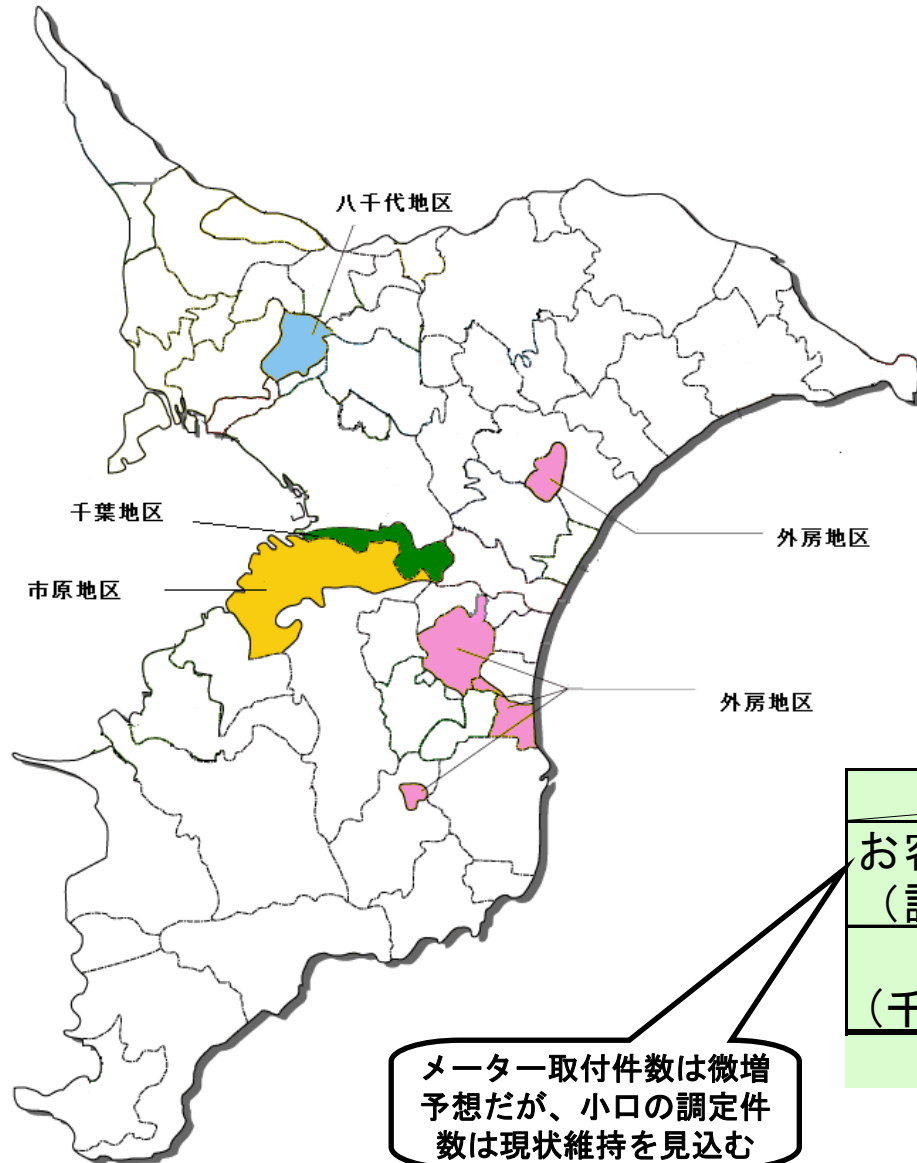
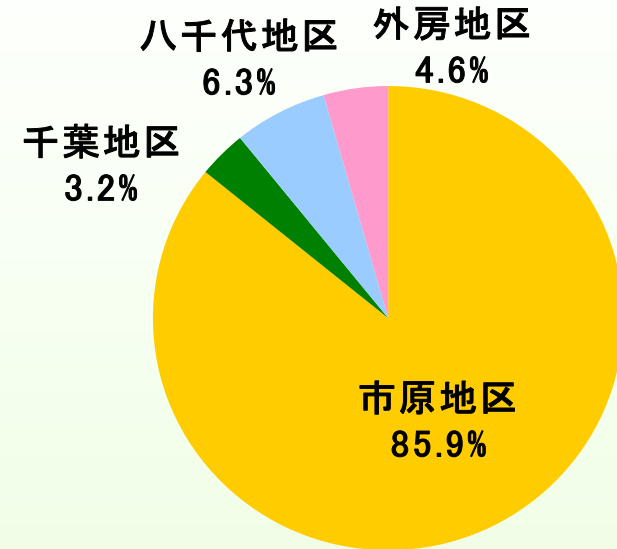
- ・ 10万 $m^3$ /年 (46MJ/ $m^3$ ) 未満が規制対象
  - ▶ 認可料金
  - ▶ 原料調整制度とらず (当社の場合)
  - ▶ 他一般ガス事業者供給不可

- ・ 10万 $m^3$ /年 (46MJ/ $m^3$ ) 以上はエリアフリー
  - ▶ 料金は個別交渉
  - ▶ 原料価格変動反映も可能

# 大多喜ガスの供給区域

# 供給区域の概要

地域別 ガス販売量構成比  
(平成23年見込)



小口・大口増減比

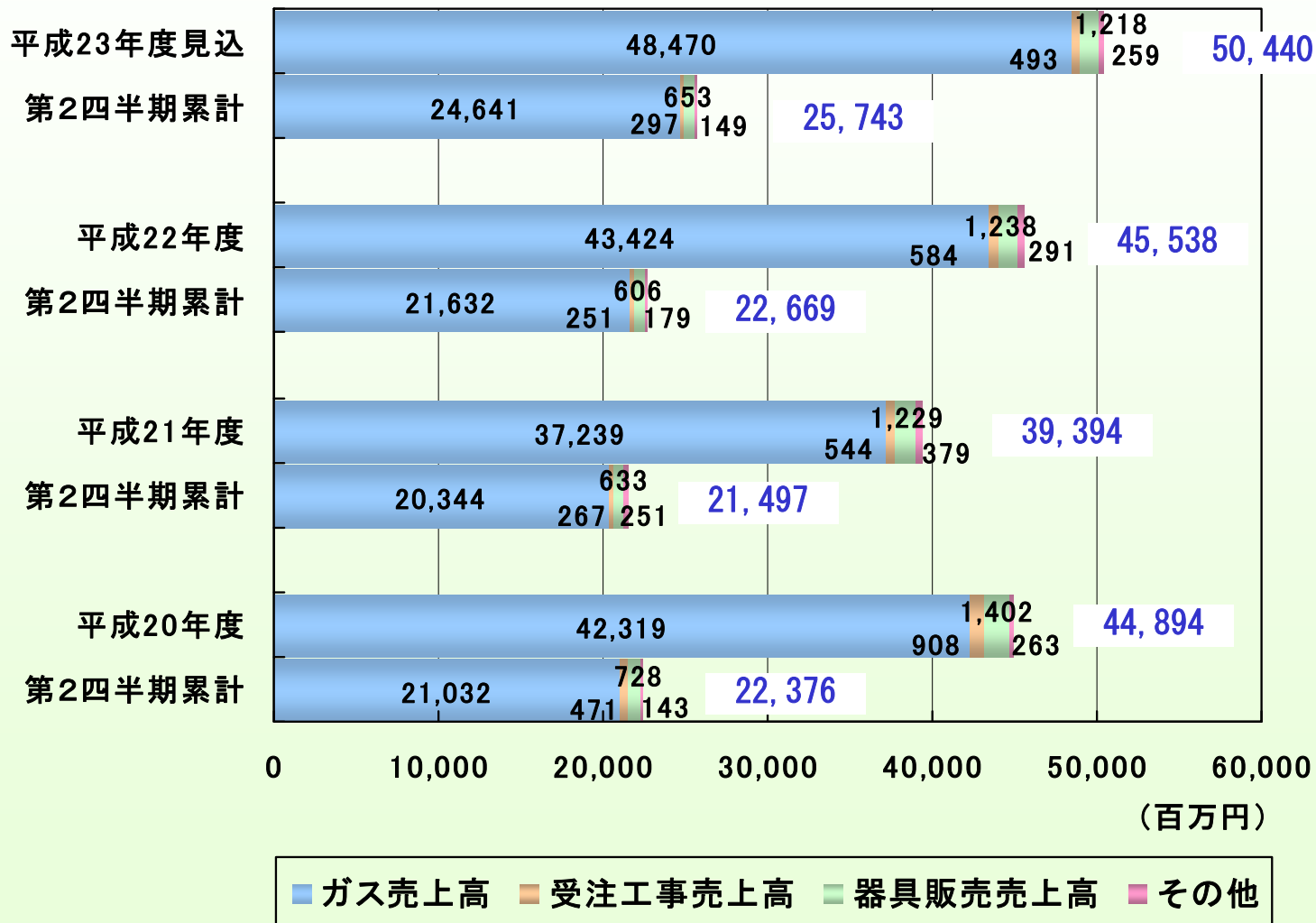
		H23見込	H22	増減
お客さま件数 (調定件数/戸)	小口	151,690	151,690	0
	大口	71	66	5
販売量 (千 $m^3$ ・39MJ/ $m^3$ )	小口	96,400	97,937	-1,537
	大口	833,000	772,727	60,273

メーター取付件数は微増  
予想だが、小口の調定件  
数は現状維持を見込む

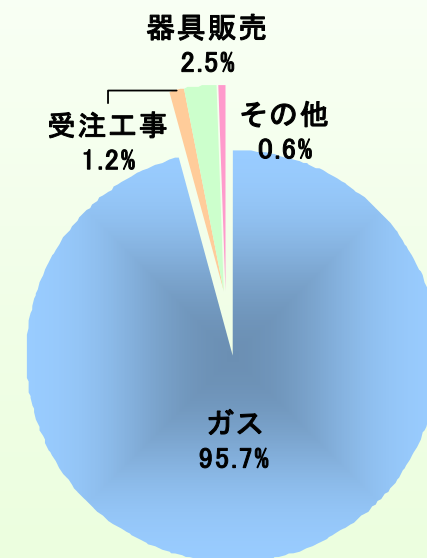
# 売上高

単体

## 平成23年度第2四半期決算 平成23年度通期見込



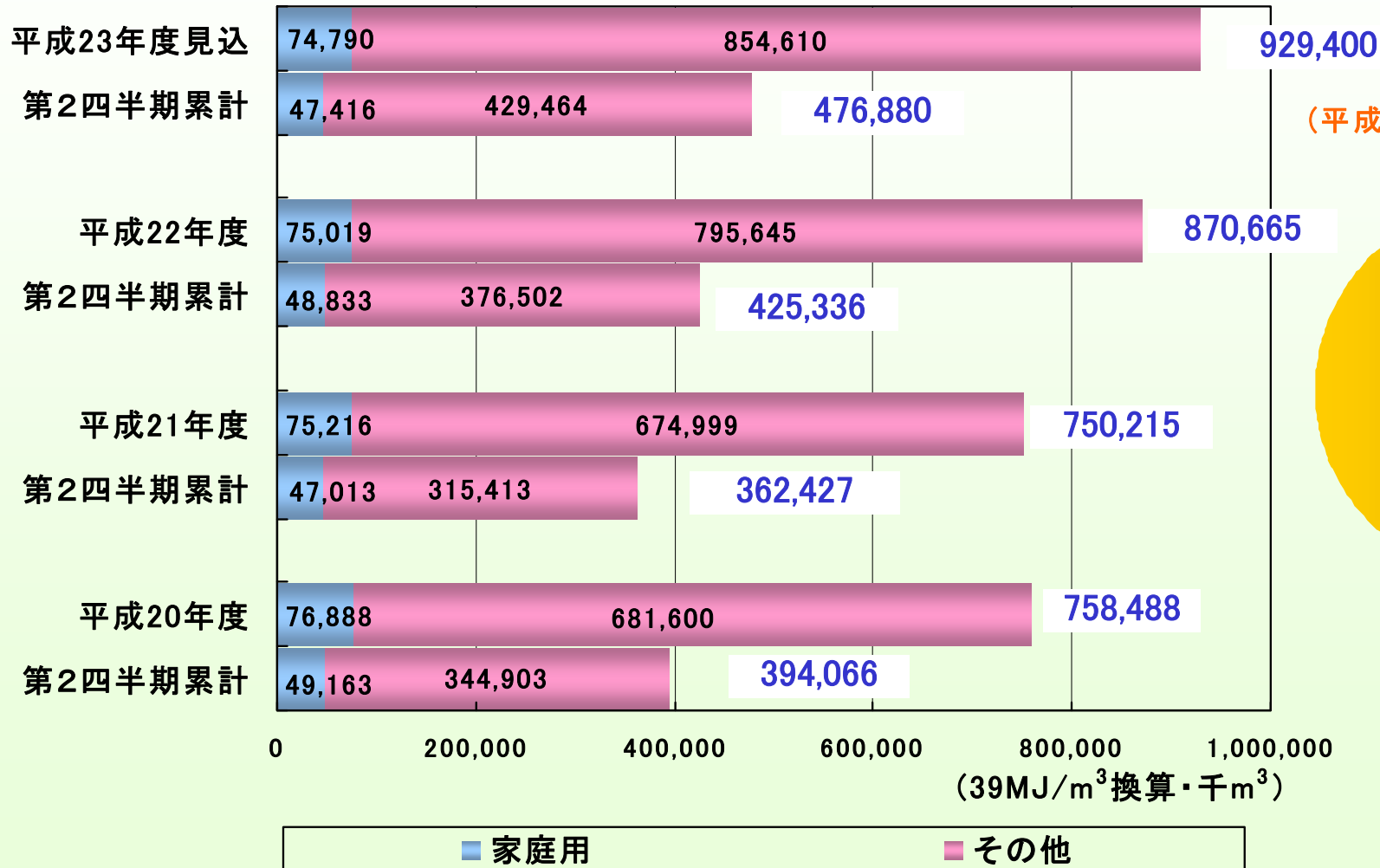
売上構成比  
(平成23年度第2四半期累計)



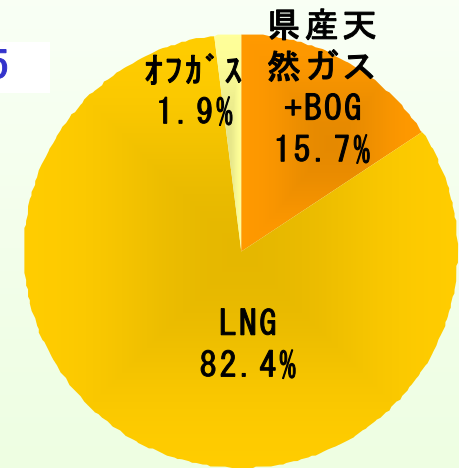
# ガス販売量

単体

## 平成23年度第2四半期決算 平成23年度通期見込



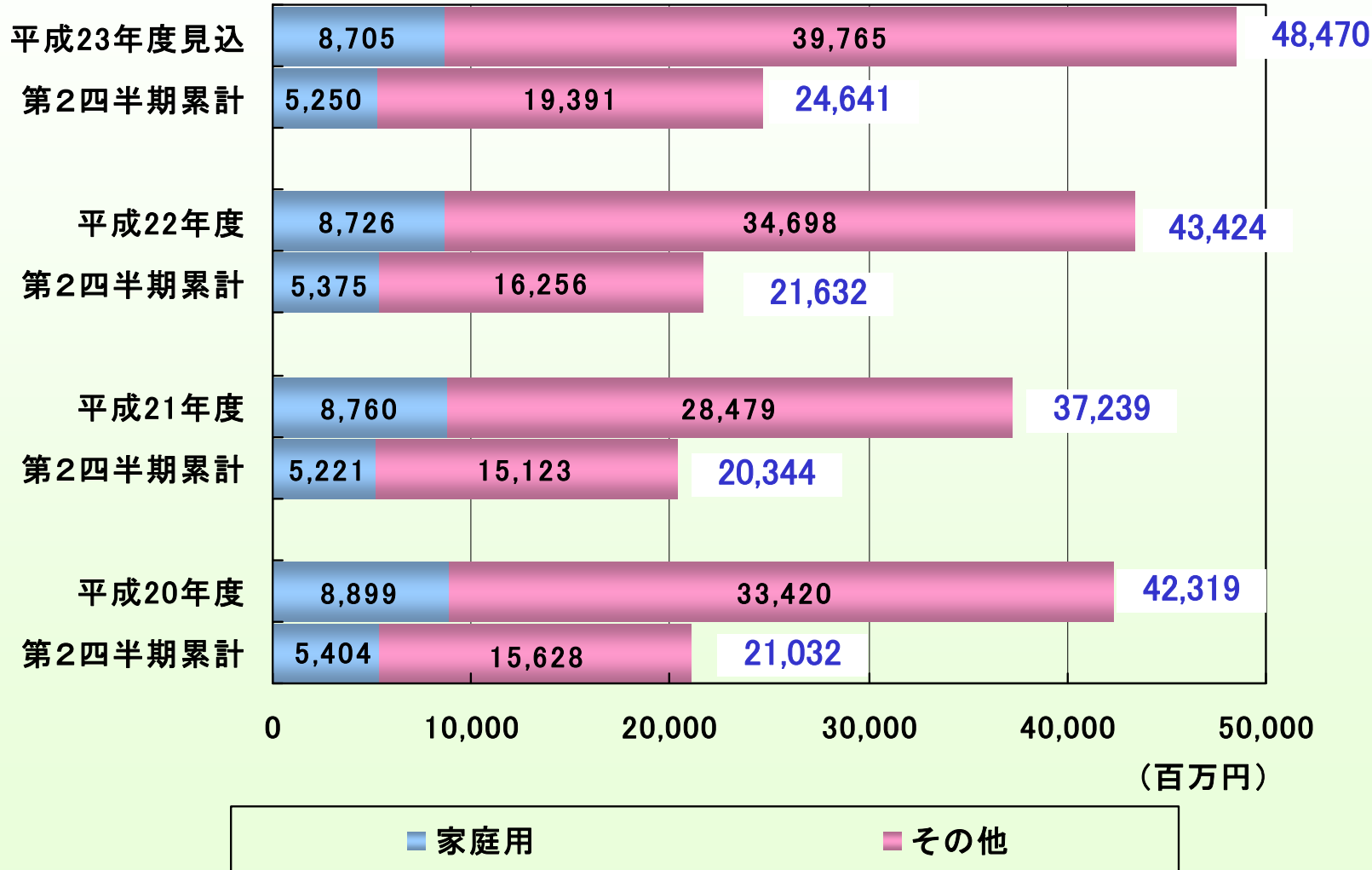
ガス源構成比  
(平成23年度第2四半期)



# ガス売上高

単体

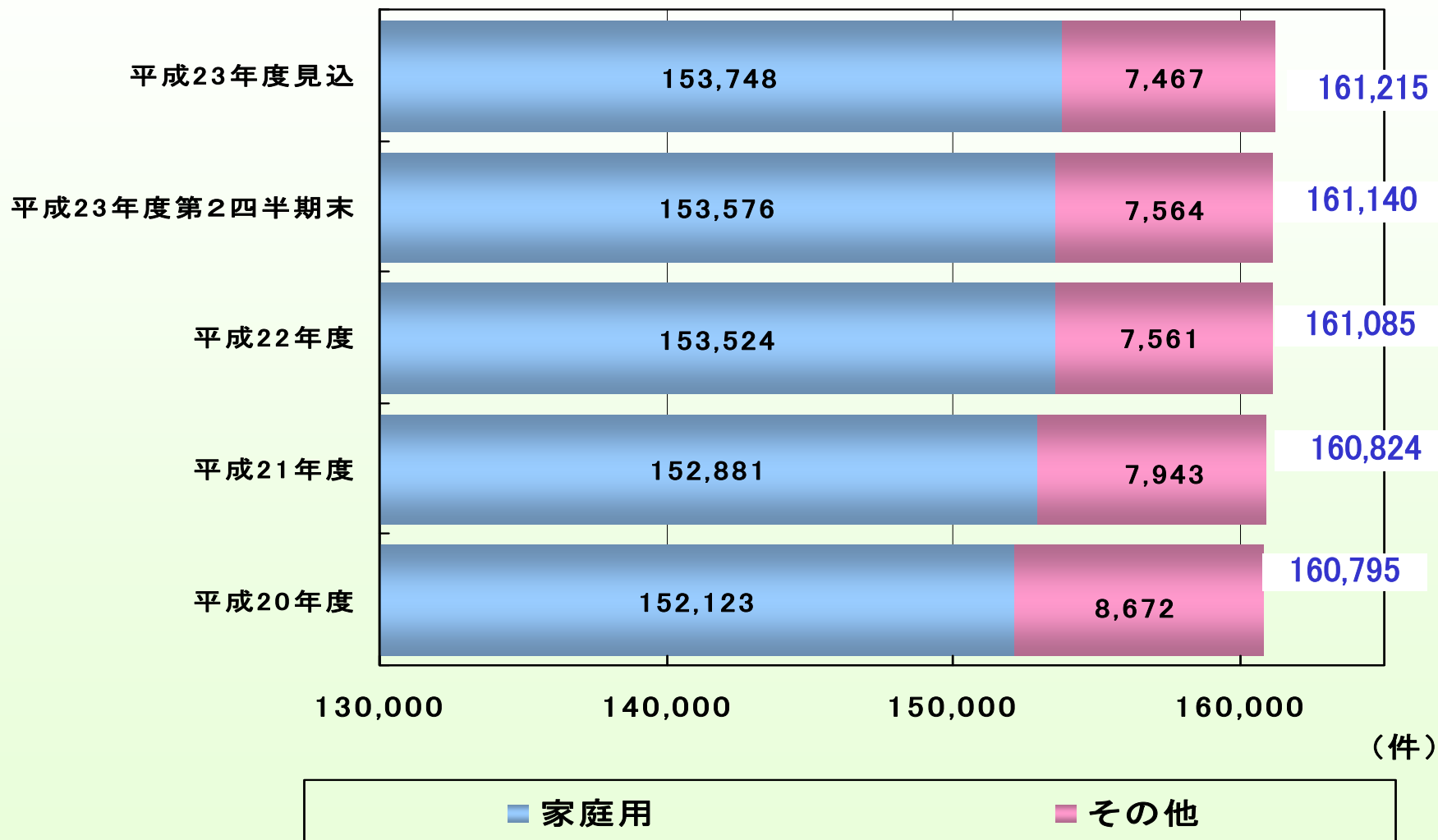
平成23年度第2四半期決算  
平成23年度通期見込



# お客さま件数 (メ-タ-取付数)

単体

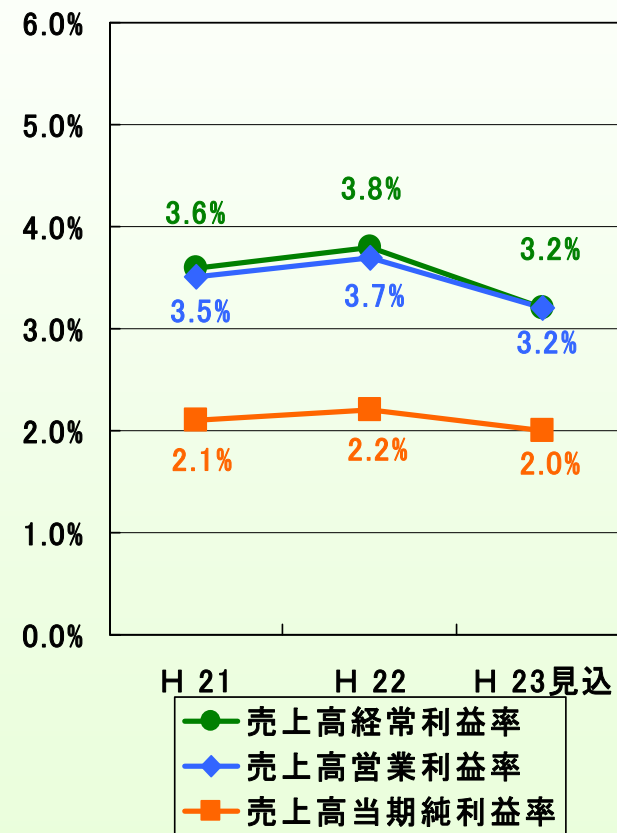
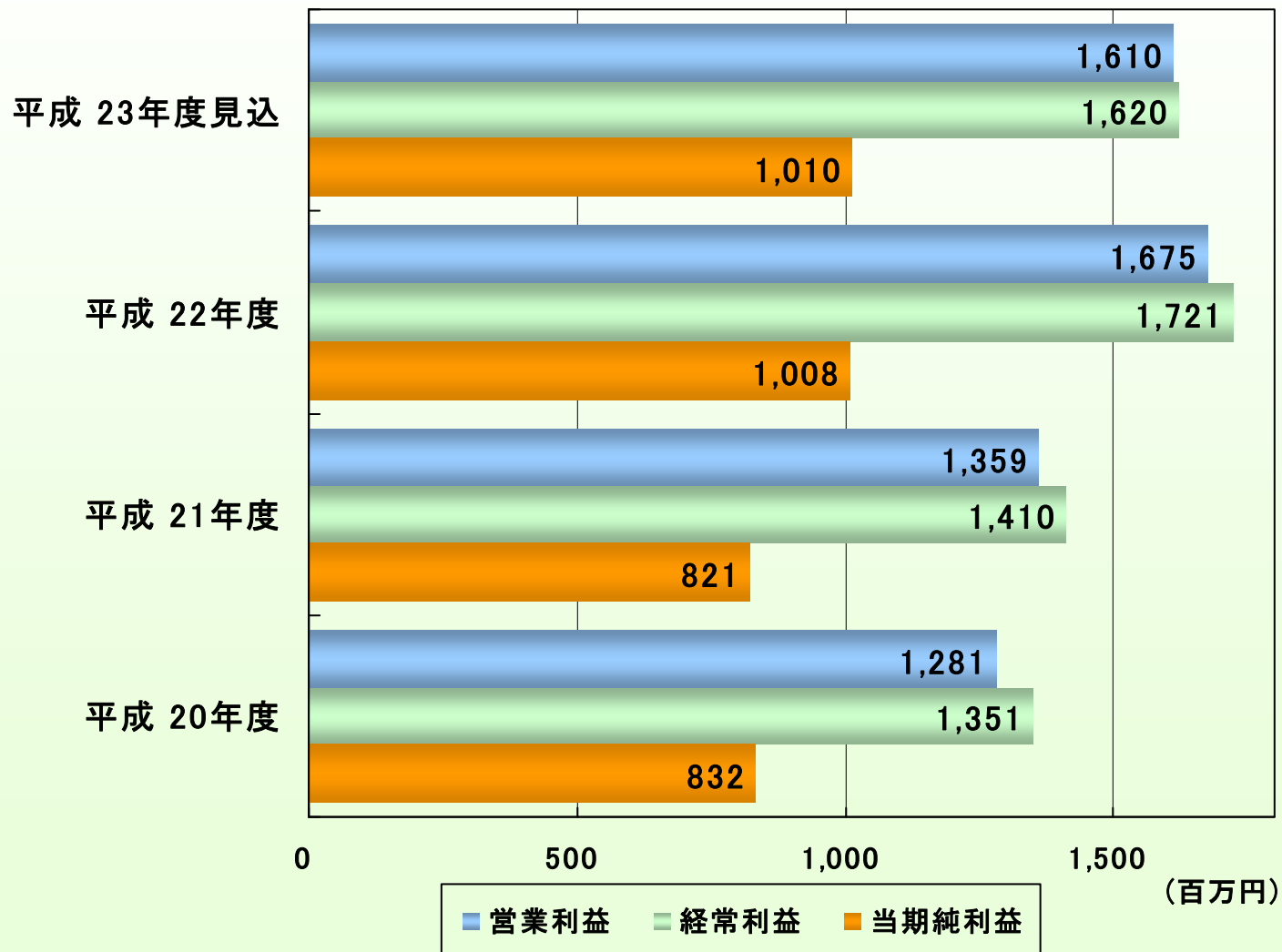
平成23年度第2四半期決算  
平成23年度通期見込



# 单体

## 平成23年度通期見込

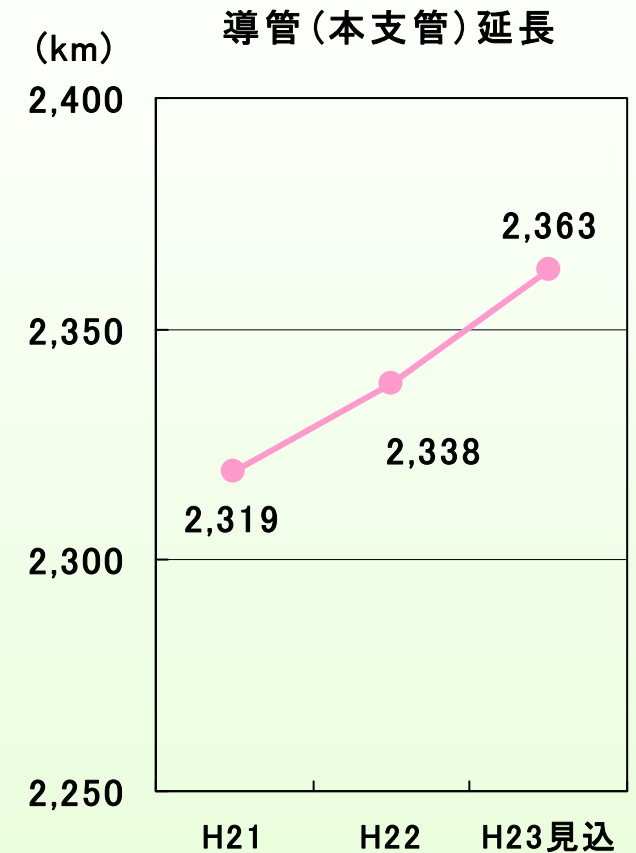
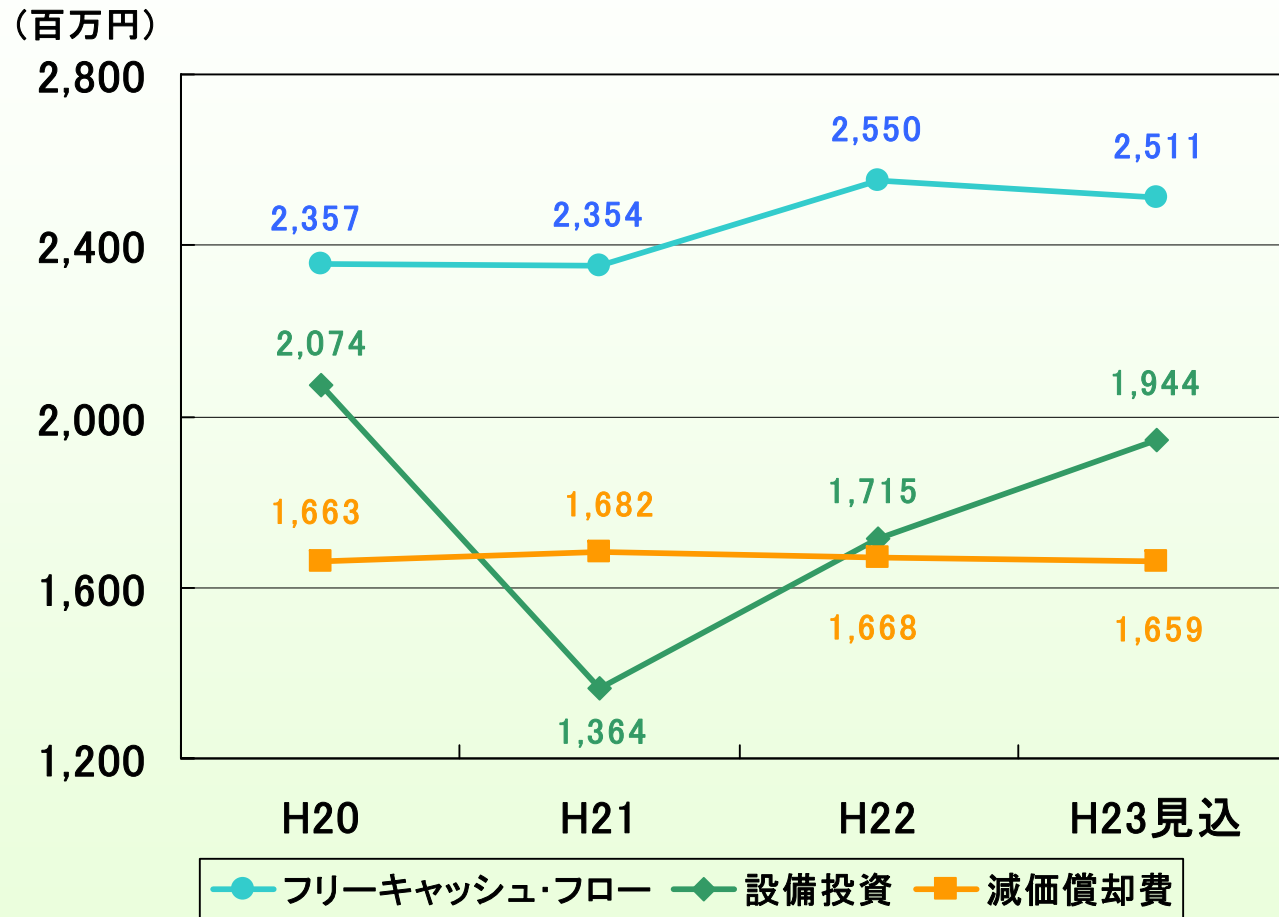
### 営業利益／經常利益／当期純利益／売上高利益率



# 資金と投資

単体

平成23年度通期見込



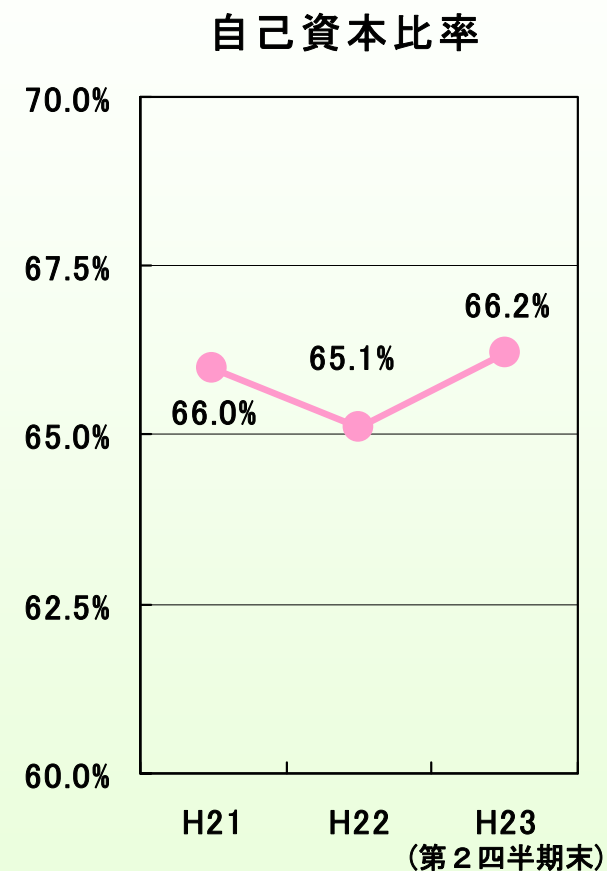
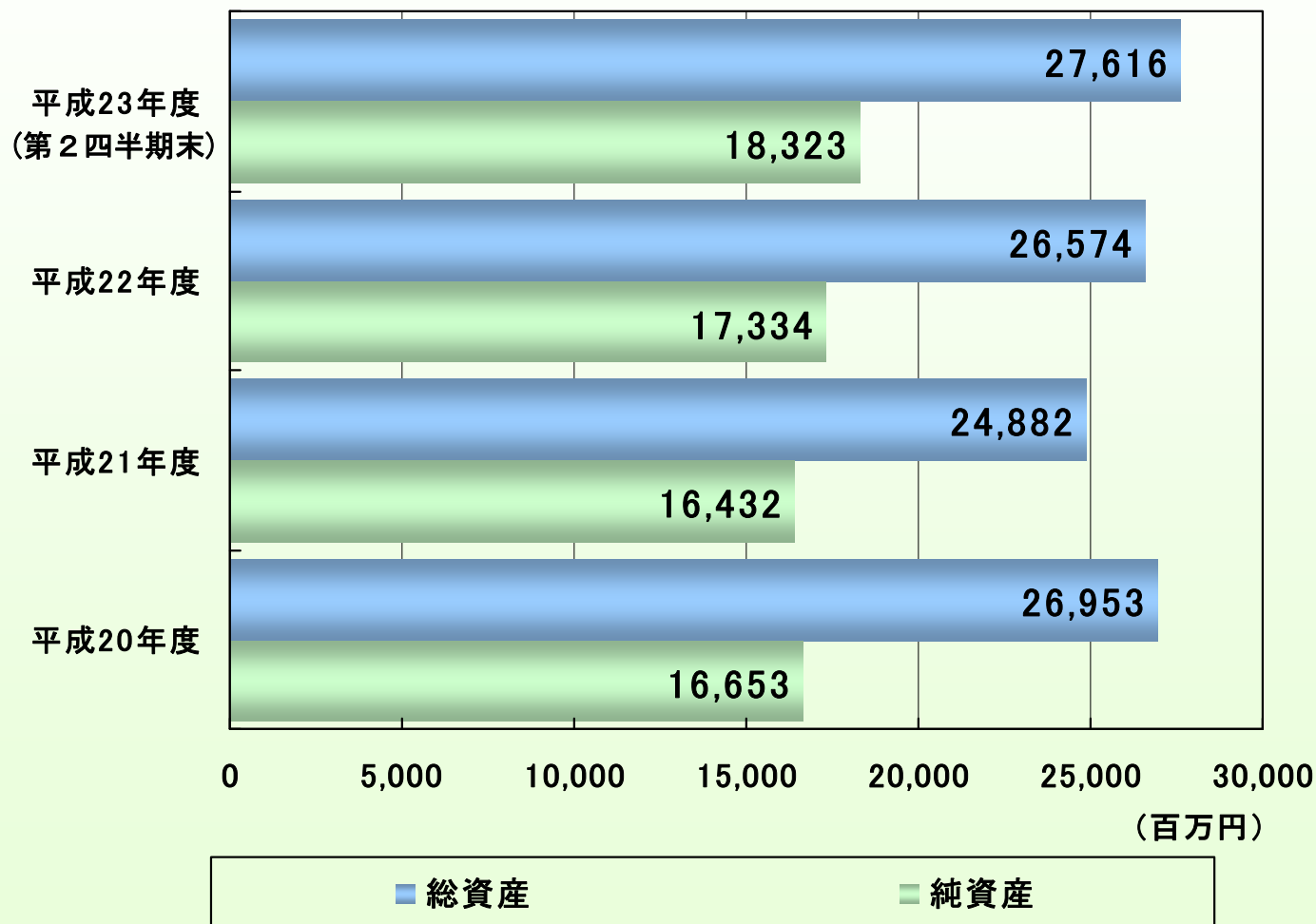
※フリーキャッシュ・フロー  
= 当期純利益 + 減価償却費 - 配当金

# 総資産／純資産



# 平成23年度第2四半期決算

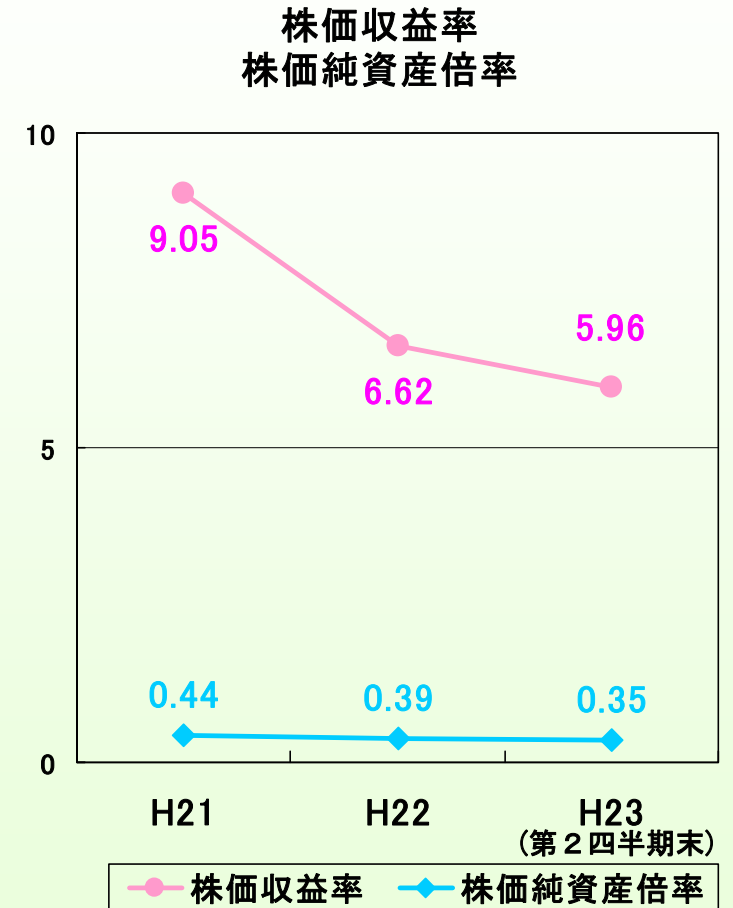
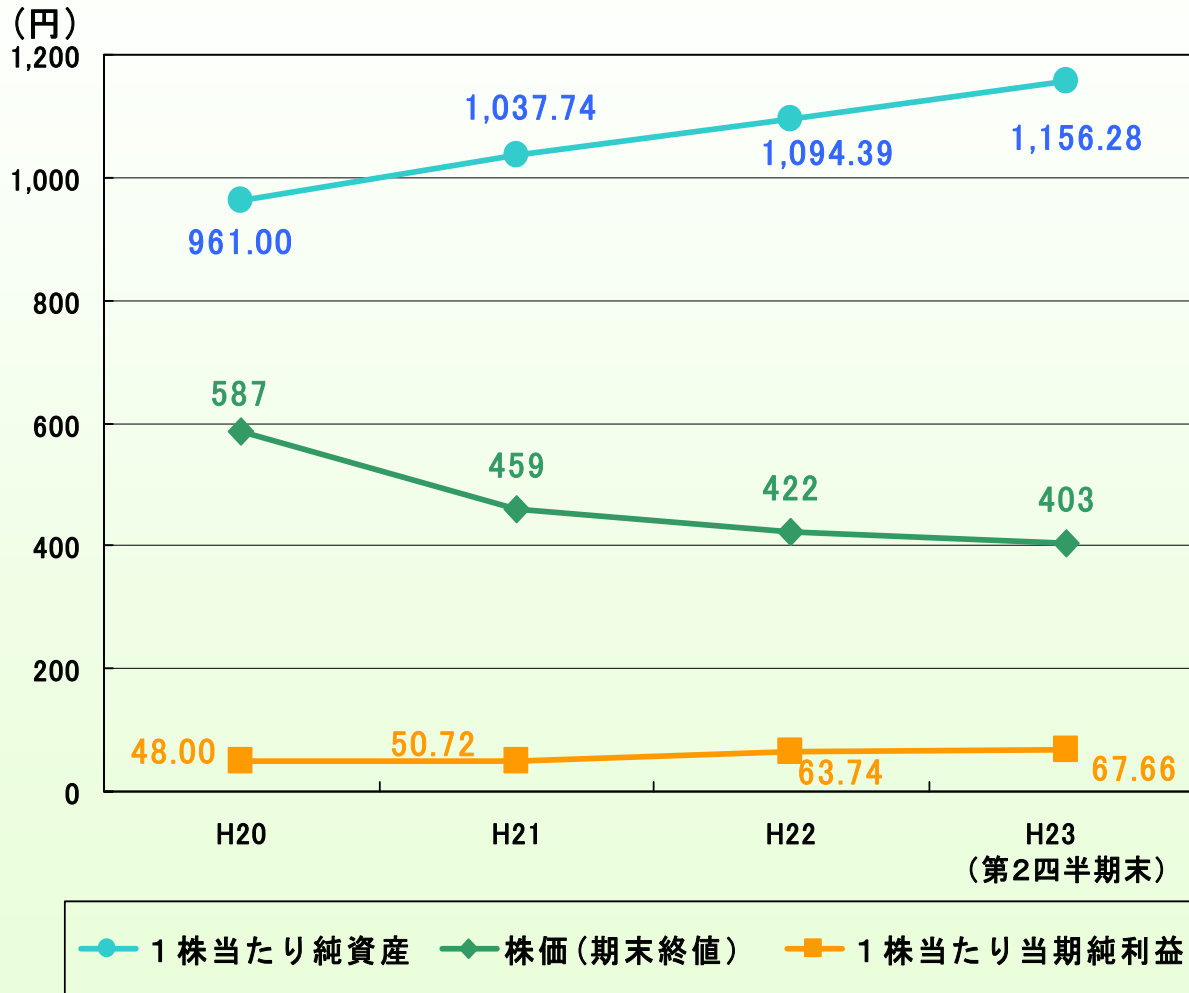
## 自己資本比率





## 1株当たり指標

### 株価関連指標など



# 3. 電力不足に対する ガス業界の取り組み

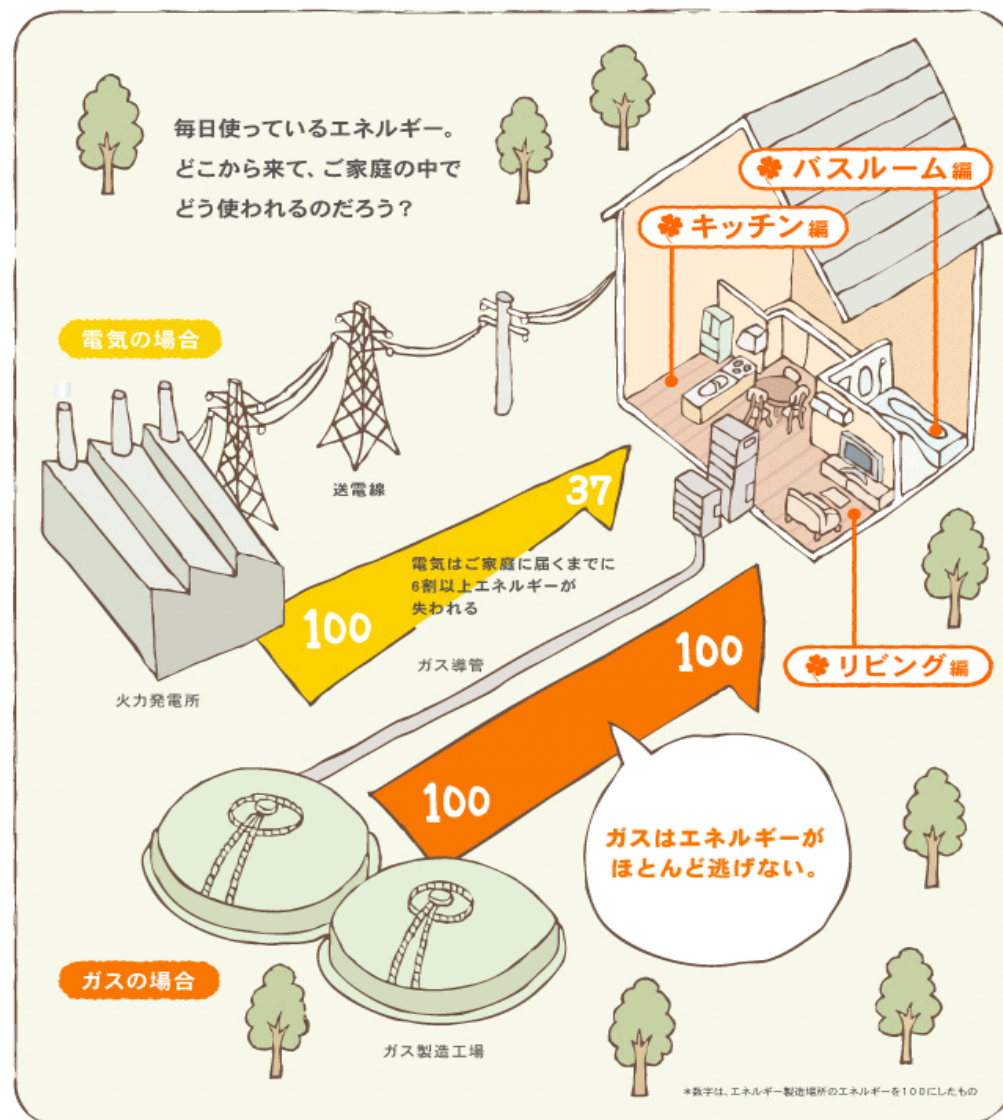
# ガスでできる節電～エネルギーのベストミックス～

電気は、発電所で作られ送電線を介して各ご家庭まで届けられる手間のかかったいわゆる“高級なエネルギー”です。

**電気ではできないことは電気で！**

**ガスでできることはガスで！**

エネルギーを上手に使い分けることでガス機器の使用を通じて節電をすることが可能です。



# 電力不足に対するガス業界の取り組み

## 1. 家庭用分野

ガスによるマイホーム発電(エネファームやエコウィル)と太陽光発電を組み合わせたW発電。

## 2. 業務用分野

- ・ガス空調の普及促進。
- ・分散型電源としての天然ガスコージェネレーションシステムの導入。(＋熱エネルギーの効率的利用)

→ 省エネルギー、低炭素社会の実現！

# 家庭でできる節電(ガス機器の活用)

## ①調理方法を変更する

### 【コンロで料理を温める】

1,450W／台の省電力

電子レンジで温めると約1,450Wの電力を消費するのに対し、ガスコンロは電池駆動なので電力会社からの消費電力はゼロ。料理はガスコンロで温めると電子レンジよりも省電力です。

### 【コンロでご飯を炊く】

1,200W／台の省電力

電気炊飯器で炊飯すると1,200Wの電力を消費するのに対し、ガスコンロでご飯を炊くと電池駆動なので電力会社からの消費電力はゼロ。しかも少ないエネルギーでおいしくふっくら炊きあがります。

### 【コンロでお湯を沸かす】

900W／台の省電力

電気ポットでお湯を沸かすと約900Wの電力を消費するのに対し、ガスコンロは電池駆動なので電力会社からの消費電力はゼロ。さらに保温時の消費電力も考えると、お湯は必要な時に必要な分だけガスコンロで沸かすのが省電力です。

### 【グリルでパンを焼く】

900W／台の省電力

トースターでパンを焼くと約900Wの電力を消費するのに対し、ガスコンロは電池駆動なので電力会社からの消費電力はゼロ。ガスコンロのグリルを使ってパンを焼けば、省電力な上に、短時間でおいしく焼きあがります。

# 家庭でできる節電(ガス機器の活用)

## ②使用機器を変更する

【Siセンサーコンロに変更する】

3,000W／台の省電力

Siセンサーコンロは99.5%の機種で電池での駆動が可能であるのに対し、IHクッキングヒーターは約3,000Wの電力を消費します。さらにSiセンサーコンロは高温・短時間で調理ができ、鍋全体が均一に熱せられるため、特に強火を使う料理がおいしく仕上がります。

【エコジョーズに変更する】

900～4,500W／台の省電力

電気温水器が約4,600W、エコキュートが約1,000Wの電力を消費するのに対し、ガス給湯器の消費電力は約100Wです。熱効率が約95%まで向上したエコジョーズを使用して必要なときに必要なだけお湯を使えば更に省エネ・省電力です。

【ガス温水式床暖房に変更する】

1,700W／台の省電力

10畳程度の部屋を暖房する場合、電気式床暖房は約2,000Wの電力を消費するのに対し、ガス温水式は頭寒足熱の理想的な暖房環境を実現しながら、約300Wの消費電力で済みます。熱源機に熱効率の高いエコジョーズを使えば、さらに省エネが実現できます。

【ガスファンヒーターに変更する】

960～1,000W／台の省電力

電気ストーブを使用すると約1,000Wの電力を消費するのに対し、ガスファンヒーターなら約40Wの消費電力で済みます。また、電源不要のガスストーブを使用すれば更に省電力です。

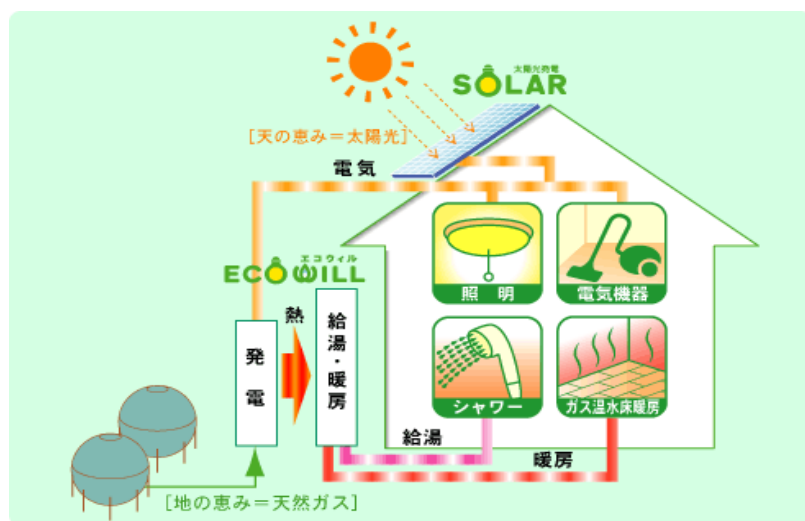
## 1. 家庭用分野の取り組み

# 家庭でできる節電(ガス機器の活用)

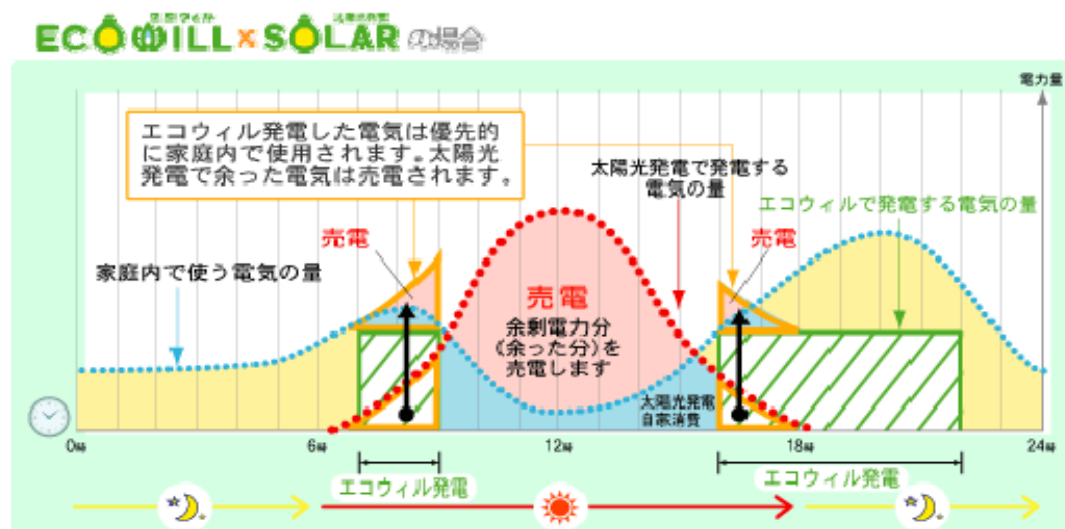
## ③ガスでマイホーム発電する

家庭用コージェネレーションの導入で約1,000Wの商用電力の削減が可能になります。また、太陽光発電と組み合わせるダブル発電で更なる電力の削減が可能になります。

1,000W/台の省電力



エコウィルと太陽光発電を組合せた場合のイメージ(ダブル発電)



ダブル発電による最大電力および全体的な消費電力量削減イメージ

# ガス空調の導入による負荷平準化

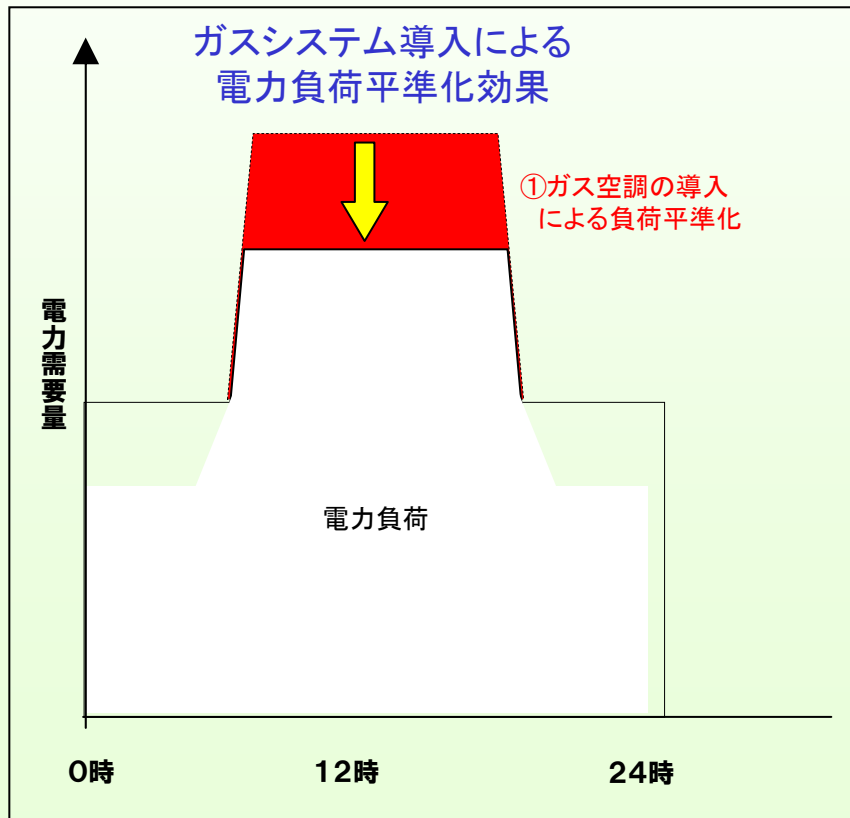
現在、全国で約4,400万kWのガス空調システムが導入され、約1,300万kWの電力負荷を引下げ

## 夏冬の電力需要の特徴

- ・電力需要の多くが空調(冷暖房)用途であり、ピークが昼間に集中
- ・ピーク時に合わせた発電・送配電等の設備が必要

電力需要・  
電力供給設備を  
押し上げる一因

ガス空調で  
電力負荷を  
平準化



## 大型施設(商業ビル、ホテル、大病院など)

電気式ターボ冷凍機から  
↓  
ガス吸収式空調システムへ入替え

○オフィスビル(床面積1万m<sup>2</sup>規模)  
1棟で約**370kW**の電力需要を抑制



## 中小規模施設(学校、ファミレス、一般店舗など)

電気ヒートポンプ(EHP)から  
↓  
ガスヒートポンプ(GHP)へ入替え

○小学校(1学年3クラス規模)  
1校で約**60kW**の電力需要を抑制  
○ファミリーレストラン(床面積300m<sup>2</sup>規模)  
1店舗で約**20kW**の電力需要を抑制



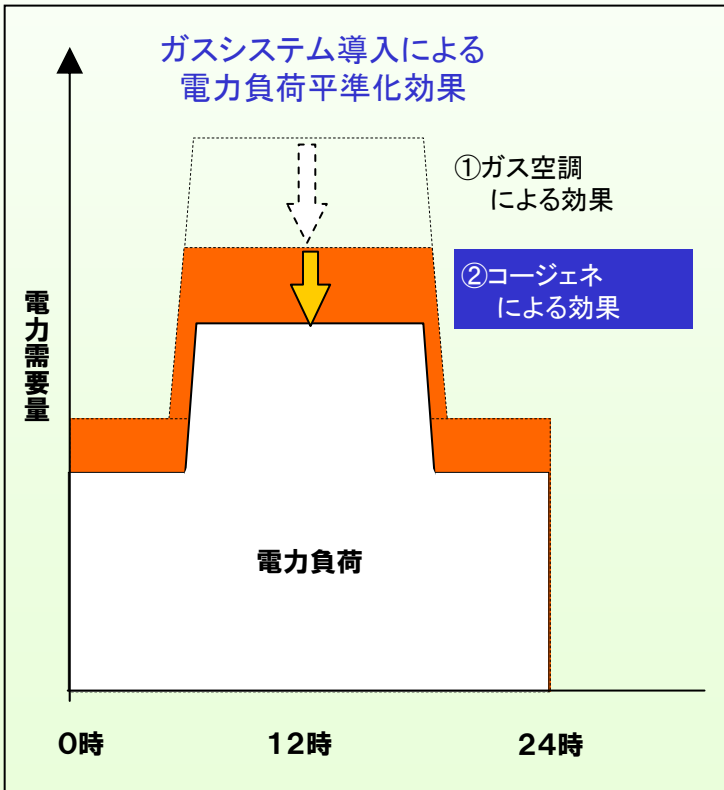
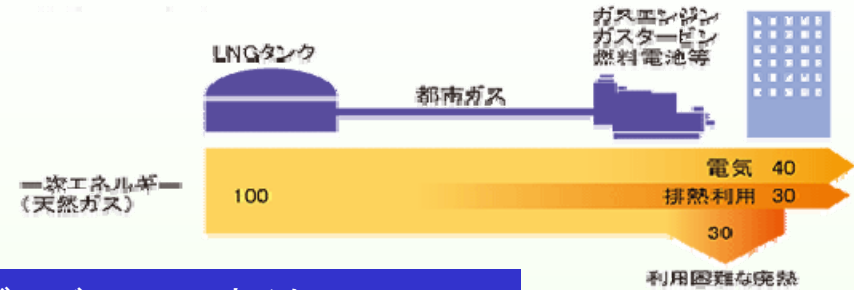
2. 業務用分野の取り組み

# 分散型発電(コージェネレーション)の導入

現在全国で約450万kWのコージェネが導入され、電力負荷平準化とセキュリティに貢献

## コージェネレーションの特長

- ・お客さま先にガスエンジン・ガスタービン・燃料電池を設置することで電気と熱を作り出して高い省エネ性を発揮
- ・系統電力を削減すると共に災害時にも自家ならびに近隣への電力供給にも対応可能



### 需要家のエネルギーバランスに応じたコージェネ・燃料電池の導入が可能

産業用向け

ミラーサイクル  
ガスエンジン

業務用・店舗向け

ジェネライト

家庭用コージェネレーション

■家庭用ガスエンジン  
コージェネ

■燃料電池  
(PEFC/SOFC)

※余剰電力の適切な買取制度があれば、稼働時間を増やして発電量全体を増加することも可能

# 4. 平成23年度 中期経営計画の修正

# 現中期経営計画の 平成25年度の計画目標値

## 1. お客さま件数(調定件数)

15.1万件(H22実績)⇒15.0万件維持(H25)

## 2. ガス販売量

8億7千万 $\text{m}^3$ (H22実績)⇒9億 $\text{m}^3$ (H25)

※ガス量は39MJ/ $\text{m}^3$ 換算で表示。

## 3. 売上高(当社単体)

455億円(H22実績)⇒470億円(H25)

## 4. 経常利益(当社単体)

17億円(H22実績)⇒13億円確保(H25)

①少子高齢化等の社会構造の変化  
②他エネルギーとの競合  
③新料金調定システム導入に伴う償却負担

## 修正前の6つの中期経営計画重点戦略

---

- 1. 電化対抗
  - 2. 家庭用需要の維持・獲得
  - 3. 業務用・工業用向けへの拡販
  - 4. 安全・安心の推進
  - 5. お客さまサービス向上
  - 6. 人材力・技術力向上
-

# 重点戦略の修正(6つ⇒5つへ)

統合

## 1. 電化対抗

東日本大震災による福島原発事故での電力不足へ対応する為、「電化対抗」といった対立軸の捉え方でなく、都市ガス業界を挙げてエネルギーベストミックスでの暮らしの質の向上を目指す考え方に転換。

1. 家庭用需要の維持・獲得

2. 業務用・工業用向けへの拡販

3. 安全・安心の推進

4. お客様サービス向上

5. 人材力・技術力向上

# 5. 利益配分の基本方針

# 利益配分の基本方針

公益事業者として都市ガスの長期安定供給を使命とし、その使命を達成するために、引き続き安定的な経営基盤の確保に努めるとともに、**安定配当の維持・継続**でお応えしていきます。

平成23年度中間配当金 1株につき4.0円(実績)  
平成23年度期末配当金 1株につき4.0円(予定)  
平成23年度年間配当金 1株につき8.0円(予定)

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
中間配当金	4.0円	4.0円	4.0円	4.0円	4.0円実績
期末配当金	4.0円	※① 5.0円	4.0円	※② 6.0円	(4.0円予定)
年間配当金	8.0円	9.0円	8.0円	10.0円	(8.0円予定)

※①お客さま件数16万件達成記念配当 1円

※②創業80周年記念配当 2円

本日は、お忙しいところ、  
大変ありがとうございました。  
ました。

